

# ワカケホンセイインコ (*Psittacula krameri manillensis*) の食性の報告

○松永聡美 藤井 幹 室伏 龍 (公益財団法人 日本鳥類保護連盟)

**はじめに**

ワカケホンセイインコは1960年代後半に日本で分布を広げた外来種で、現在、東京都を中心として神奈川県、埼玉県に広く分布する1,000羽を超える大きなグループと、千葉県と群馬県にそれぞれ分布する100羽以下の小さなグループの3グループが確認されている。ワカケホンセイインコの原産地の中には、標高が高く気温の低い地域もあるため、日本の冬も問題なく過ごすことが可能であるが、都市部において本種が何を食べて1年を過ごすことができていないか、また十分な報告がされていない。本報告では、採餌内容について調査によって集積された情報と一般者から寄せられた情報をとりまとめて整理したが、ここ数年の食性の変化によって懸念される問題についても交えて報告する。

## 春 (3月~5月)

3月  
サクラの花蜜  
アズミの花蜜  
ウメの花蜜  
ハクモクレンの花  
餌台  
(ヒマワリの種、リンゴ、米)



4月  
サクラ花蜜  
ユリノキの花芽、新芽  
ハルニシの新芽  
トウカエデの新芽  
プラタナスの新芽  
イチヨウの新芽  
ヤドリギの葉  
餌台  
(ヒマワリの種、リンゴ、米)

地面から70cm程度のマツバギクの葉肉を採餌。撮影時に150cm程度まで近付いても逃げず、人を恐れる様子は見えなかった。

5月  
ユリノキの花  
トウカエデの新芽  
プラタナスの新芽  
サクラの新芽  
マツバギクの葉  
サルスベリの実  
クワの実  
ヤドリの実  
パールアカシアの実  
ミモザの実  
サクラの実  
餌台 (ヒマワリの種、リンゴ、米)

## 夏 (6月~8月)

6月  
竹の穂先  
ユリノキの新芽  
サクラの実  
モモの実

7月  
ヒマワリの種、花  
リンゴ  
スキの実  
ブルーベリー  
ナツツバキの実  
サワラの実  
青いカキの実 (農園)

8月  
ヒマワリの種、花  
クロガネモチの実  
トウジロの実  
シュロの実  
青いカキの実 (農園)



ヒマワリの茎にとまって種を採餌。嘴で器用に殻を割って中身だけ食べる。花の下には種の殻が散らばっていた。

## 秋 (9月~11月)

9月  
ヒマワリの種  
リンゴ (農園)  
ケヤキの実  
ハナミズキの実

10月  
ニセアカシアの茎  
カキの実  
ムクノキの実

11月  
ムクノキの実  
シラカシの実  
マツの実  
アキニレの実  
ハゼの実  
ニセアカシアの葉柄、実  
餌台 (ヒマワリの種、米)



気温が下がり、自然の餌が少なくなると餌台が賑わいだす。左記の写真では米を採餌しており、スズメも集まってきている。

## 冬 (12月~2月)

12月  
サザンカの花  
トウカエデの冬芽  
シイの実  
カラスウリの実  
カキの実  
餌台 (ヒマワリの種、リンゴ、ピーナッツ、米)

1月  
コブシの花芽  
ミカン  
カラスザンショウの実  
カキの実  
餌台 (ヒマワリの種、米)

2月  
ウメのつぼみ  
サクラのつぼみ  
バラのつぼみ  
ハクレンのつぼみ  
サクラの花蜜  
キウイの葉芽  
プロコウリーの葉、花  
ムクノキの実  
餌台 (ヒマワリの種、リンゴ、米、葉)



時期不明  
マツバギクの花、葉  
コノテガシワの実  
アカシデの花穂

### サクラへの依存性

2月に入るとカンヒザクラやカンザクラが開花し、その後4月中旬にかけて様々なサクラの花が微妙に時期をずらしながら開花するが、ワカケホンセイインコはその開花の時期に合わせて分布域が変化するほどサクラの花に依存している。人を恐れる様子はなく、目線の近くでも採餌しているため花見客の目に付きやすいこともあり、この時期は多くの情報が寄せられる。



2月~3月に開花する公園のカンヒザクラの花蜜を採餌。花托部分を嘴で切り取り蜜を舐めとる。花1つあたりの採餌時間は1~2秒程度と大変短く、一見すると花を散らかして遊んでいるように見える。

### 農業被害の現状

ワカケホンセイインコによる果樹園における農業被害は、防鳥ネットを張っている農園が多いこともあり、今のところ大きな被害にはなっていないが、一部の防鳥ネットを張っていない農園では青いカキが食べられるといった被害が出始めている。今後防鳥ネットが張っていない農園での農業被害の有無について調査し、被害が有る場所と無い場所での環境要因がどのように違うか比較する必要がある。

### ワカケホンセイインコが採餌するサクラの種類



### 餌資源の伝播

ワカケホンセイインコは集団を形成している。その理由としては外敵を避ける為と、もう一つは餌の獲得の為と考えられる。ワカケホンセイインコは植物食の為、雑食の鳥類と比べると餌資源が限られることになる。また、開花や結実が年間のある時期に限定される為、どの時期にどこに餌があるのか単独で探すのは効率が悪く、そこで集団で餌を取ることによって仲間と情報を共有し餌資源を獲得していると考えられる。

### 食性の幅の広がり

近年になってマツバギクやヒマワリといった地上付近の餌や樹木類の採餌が多く観察されるようになった。このような行動が以前から頻りに行われていたものか十分な調査が行われていないが、一概に判断することはできないが、何らかの方法でワカケホンセイインコが新たな餌資源を獲得し、徐々に食性の幅を広げていると考えられる。同じオウム目のミヤマオウムは高山に生息している為、餌資源が乏しく、その影響で高い知能と旺盛な好奇心を獲得したと考えられているが、ワカケホンセイインコも同様に原産地の一部は標高が高く餌資源の獲得が困難であることが考えられ、いわゆる「遊び」や「いたずら」を通して新たな餌資源を獲得している可能性がある。左記の写真はイチヨウの葉を噛んでいるのが食べられている様子ではなく、これが「遊び」であるか断定はできないものの、このような行動が食性の幅を広げる一旦を担っている可能性があり、今後も引き続き食性の幅の変化についてモニタリングする必要がある。

ワカケホンセイインコの目撃情報集集中!  
(公財)日本鳥類保護連盟ではワカケホンセイインコの情報を随時募集しております。飛んでいるところを見た、こんな物食べていた等どんな些細な情報でも構いません。もし見かけたら下記までご連絡いただければ幸いです。

〒166-0012 東京都杉並区和田3-54-5, 3F  
公益財団法人 日本鳥類保護連盟  
調査研究室 松永 聡美  
TEL: 03-5378-5691 FAX: 03-5378-5693  
e-mail: research@japb.org

